



LRQA road to success

環境データ第三者検証／京浜急行電鉄株式会社様

# サステナビリティ情報開示 の精度向上と 第三者検証の重要性



## Company Profile

京浜急行電鉄株式会社

〒220-8625

神奈川県横浜市西区高島1丁目2-8  
TEL.045-225-9696 (京急ご案内センター)

取締役社長 川俣 幸宏

<https://www.keikyu.co.jp/>



2024年11月7日 京急グループ本社にて撮影

京浜急行電鉄株式会社様（以下、京急電鉄様）は、鉄道事業を中心に幅広い事業を展開する企業です。今回、京急電鉄様は、サステナビリティ情報開示の精度向上を目指し、2023年度の環境データ（スコープ1・2排出量およびエネルギー使用量）に対して、LRQAによるISAE 3000およびISO 14064-3:2019を用いた限定的レベルの独立保証業務を実施されました。

京急電鉄様は、サステナビリティに関する

取り組みを積極的に進めています。特に、気候変動問題への対応として、「[京急グループ 2050年カーボンニュートラル](#)」という長期環境目標を掲げています。この目標の実現に向けて、省エネルギー施策の推進や再生可能エネルギーの導入などの取り組みを行っています。

今回は、経営戦略室 サステナビリティ推進担当 課長 尾原 瑞希 様、経営戦略室 サステナビリティ推進担当 主査 熊崎 千夏 様

取材日：2024年11月7日





経営戦略室 サステナビリティ推進担当 課長  
尾原 瑞希 様

に、環境データ第三者検証の決断に至る経緯や苦労した点、第三者検証の印象や今後の展望などについてお話を伺いました。

### 今回の環境データ第三者検証を考慮したきっかけと目的について教えていただけますか？

最大の目的は、第三者検証を通じてより精度の高いGHG（温室効果ガス）排出量の算定を実現し、当社が開示するデータの正確性を高めることです。昨今の日本社会では、有価証券報告書等におけるサステナビリティ情報開示への要請や関心が非常に高まっています。当社でも有価証券報告書にサステナビリティに関する情報を開示してきましたが、特にGHG排出量などの定量的な数字に関しては、自社対応だけではデータの信頼性を確保すること、そしてそれを証明することが難しいと感じていました。SSBJ（サステナビリティ基準委員会）基準においても第三者保証の必要性について議論されていることから、適用時期についてはまだ先の話になりますが、準備段階から有価証券報告書への対応を含め、第三者保証の取得とより精度の高い算定が実施できる体制を必要としていました。

同様に、情報開示要請への対応という意味では、CDPのスコアリングも検討要因の一つでした。当社では、2023年度から役員報酬の評価指標の一部にCDPの評価結果が採用されており、CDPのスコア維持・向上への取り組みを重要視しています。第三者検証の取得の有無がスコアリングに大きく影響することは認識していましたので、ま

ずはスコープ1とスコープ2の保証取得を通じてスコアアップを目指し、次のステップに進むために第三者検証の検討を始めました。

またきっかけとしては、社内的な理由ですが、2023年度にGHG排出量の算定をシステム化できたことが大きく影響しています。以前はExcelを用いて部署や会社単位での年次データを収集し算定していましたが、システム化により、事業拠点ごとかつ月次でデータを集計できる体制を整えることができました。このように第三者検証を受ける準備が整ったことも後押しとなり、第三者検証の実施を決断しました。また、[京急線全線において運行に使用する全電力を再生可能エネルギー由来の電力に置き換える取り組み](#)の発表があったタイミング等も重なり、社内におけるサステナビリティ情報開示に関する機運が高まっていたことから、スムーズに話を進めることができました。

### ありがとうございます。以前にあった課題や苦労した点、またそれに対して工夫した点があれば教えていただけますか？

以前にあった課題としては、GHG排出量の算定に対する社内の認識が十分ではなかったことが挙げられます。部門によっても対応や認識に温度差があったため、社会的なトレンドや要求も踏まえ、「なぜやらなければいけないのか」という点から各部門への説明に回っていました。また、これは先ほどお話しした算定システム導入のきっかけでもありますが、当時は単位ミスが多発するなど算定の精度を確保することや、データそのものの取得に苦労することが非常に多くありました。

サステナビリティ情報開示の必要性や重要度を社内に浸透させることは、私たちにとって重要な課題であり、今後も解決すべき点です。今回、第三者機関であるLRQA様が現場に来て検証を実施していただいたことで、現場の担当者にもサステナビリティ情報開示の重要性を再認識してもらった良い機会となりました。

また、当社は多くのグループ会社があり、事業も幅広く展開しています。各拠点の担当

者の協力はもちろんですが、グループ会社を統括する部門にも必要性や重要度をさらに理解してもらうことも重要になります。今回の第三者検証は、単に各拠点の担当者に対応するという話ではなく、京急グループ全体としてサステナビリティ情報開示への意識向上を促す良い機会となりました。

### 検証期間中、また保証証明書および報告書受領後に感じたメリットや良かった点はありますか？

やはりCDP質問書において、第三者検証の実施有無に関する設問に対して初めて回答ができたことは非常に意義のあるステップアップでした。また、具体的な検証の話で言えば、2024年4月から「[算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧](#)」が変更されましたが、タイミング良く第三者検証を通じていくつかの排出係数を見直すことができ、より正確な算定に繋がりました。

また、GHG排出量を取りまとめる事務局としても第三者検証を通じて多くを学ぶことができました。これまでもGHG排出量に関するデータや算定方法の情報を収集してきましたが、一部詳細な部分までは十分に理解できていないと不安に感じている点がありました。今回の第三者検証を通じて、なぜこの活動量データにこの排出係数を掛けるのかといった本質的な部分を改めて理解することができ、非常に価値のある経験となりました。社内でデータを収集する際は、事務局側が内容を正しく理解していないと各拠点に指示を出すことができません。そのため、今回の経験を通じて社内のコミュニケーションがさらに活発化し、大きなメリットを享受できたと感じています。

また、算定方法に関しては、何年か経験して初めて理解できる部分も多く存在します。社内で算定のシステム化もしましたが、システム内では事務局が排出係数を組み込む必要がある部分がどうしても残ります。その部分を今後間違えずに組み込んでいけるか、また属人化せず確実に引き継げる体制を整えていけるかという点については、第三者

検証を通じて実施できたと感じていますし、今後も活用していきたいと考えています。

### LRQAを選んだ理由、また検証内容やサポートの印象について教えてくださいませんか？

第三者検証の実施を検討している際に、タイミング良くLRQA様から声を掛けていただきました。本契約前から困ったことがあればメールや打ち合わせで相談させていただき、当初から信頼できる検証機関だと感じていました。また、LRQA様の実績を拝見し、環境データ第三者保証サービスを提供されている長年の実績や、同業の鉄道事業者様や航空事業者様との実績も確認しましたので、今回LRQA様にお願いすることにしました。

検証の印象としては、詳細に見ていただきつつも柔軟に対応していただいたので、非常に助かりました。第三者検証を受ける前は、100%完璧な状態で見てもらう必要があると思っていました。しかし実際は、現時点で対応できていない部分について、いつまでに改善すべきかというスタンスで検証を実施していただいたので、私たちも現場の担当者も安心して対応することができました。

一例ですが、当社の鉄道車両の整備工場におけるサイトツアーの際、当時算定対象として見ていなかったガスの発見がありました。結果的に少量だったため排出源としては対

象外となりましたが、たとえボンベ1本でも、これは何のボンベなのか、何のガスを使っているのかといった形で非常に細かく見ていただき、私たちだけでは把握できていなかった点を指摘してもらえたので非常に助かりました。

また、検証時の指摘も一方的な指示ではなく、いくつかの方法を提案していただき、一番運用しやすい方法を検討してくださいという形で選択肢をいただけたのはとてもありがたかったです。現場で対応しきれない部分についても、複数の提案をいただくことで、どの方法が運用しやすいかを事務局サイドで検討することができました。そういった点も非常に助かりました。

### ありがとうございます。今後の方針や重点的に実施したい分野について教えてくださいませんか？

今後は第三者検証の範囲を広げることを目指しています。まずは社会的要求も高まっているスコープ3の第三者検証を近いうちに実施したいと考えています。また、今回はGHG排出量に対する保証取得を目指して対応してきましたが、環境データの対象範囲を少しずつ広げていくことも検討していきたいと思っています。CDPに関しても、水セキュリティ質問書というものもありますので、水をはじめとする他の環境データについても考慮しながら、開示データの正確性や信頼性を高めることに注力したいと思っています。



経営戦略室 サステナビリティ推進担当 主査  
熊崎 千夏 様

### ありがとうございます。では最後に、LRQAへの要望はございますか？

サステナビリティ情報開示の最新動向や新しい情報があれば、今後も共有していただけるとありがたいです。サステナビリティ関連の情報は日々アップデートされるため、新しい情報を迅速に収集することが難しいと感じることがあります。LRQA様のウェビナーも拝聴しておりますが、今後もサステナビリティに関する最新動向や専門家の意見をご教授いただけると助かります。

本日はありがとうございました。





### ●京急グループ本社におけるGHG排出量削減に向けた取り組み

京急電鉄は2019年9月に横浜・みなとみらい21地区へ本社を移転しました。今回本取材を実施した京急グループ本社には、京急電鉄を含むグループ12社が入居しています。また、地域のにぎわい創出を目的として、1階には企業ミュージアム「京急ミュージアム」を併設しています。

本ビルは屋上に太陽光発電設備を設置し、生成したエネルギーは自家消費しているほか、2021年12月からは再生可能エネルギー由来の電力を導入し、電気由来のCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロとしています。さらに、2024年12月からは「カーボンニュートラル都市ガス」の導入も開始し、スコープ1排出量の削減も進めています。

今後も京急グループの中核機能として、GHG排出量の削減をはじめとする環境への取り組みを積極的に推進していきます。



### ●京急線全線における再生可能エネルギー由来の電力の導入

京急電鉄は2021年度から、鉄道事業における運転用電力および業務用電力（駅務機器や信号等で使用する電気）の一部を再生可能エネルギー由来の電力に置き換え、CO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組むとともに、対象範囲を順次拡大してきました。2024年4月からは対象範囲を全線とし、CO<sub>2</sub>フリーの鉄道として運行しています。

本取り組みにより、京急グループのGHG排出量を大幅に削減するほか、京急線を通勤・通学や出張等で利用されるお客さまの移動にともなう排出量もゼロとなることで、他企業におけるスコープ3排出量の削減にも貢献します。

また、京急線を含む公共交通機関へのモーダルシフトに向けた取り組みを推進することで、社会全体の排出量削減にも寄与してまいります。

### お問い合わせ

詳細については、<https://www.lrqa.com/ja-jp/> をご覧ください。



### LRQA リミテッド

〒220-6010 横浜市西区みなとみらい2-3-1 クイーンズタワー A10 階

本書に示すすべての情報が正確かつ最新であるように、LRQA リミテッドでは細心の注意を払っています。ただし、情報の不正確さや変更について当社は一切の責任を負いません。LRQA は、LRQA Group Limited およびその子会社の商号です。詳細については [www.lrqa.com/entities](http://www.lrqa.com/entities) をご参照ください。

YOUR FUTURE. OUR FOCUS.